

都道府県別賞一等

生命保険って何ですか？

兵庫県 兵庫県立大学附属中学校 二年生

新谷 玲乃

「ことばはよく聞くけどよくわからない。」

私にとつての生命保険はどのようなイメージがありました。ですが、母や保険の営業職員さんと話をする中で、生命保険に対する印象は、どんどん変わっていききました。

最近、保険の営業職員さんの方が何度か家に来られて話をしていました。母の保険の見直しのためだそうです。そもそも加入する時でさえ否定的だったのに、なぜ見直そうと思ったのか気になりました。

母は毎年職場で健康診断を受けており、結果が良いそうです。今までも大きなケガや病気をほとんどしておらず、保険に入るのは、もったいないと思っていたそうです。しかし、父の職場で手術や入院をした人がいるそうです。健康診断で病気が見つかり、すぐに手術した人、健康診断の結果が悪くても大丈夫だろうと病院にすぐ行かず、限界を迎えて病院に行った日に緊急入院になった人、ガンで入院した人などがいました。もちろん全員、数カ月以内に職場復帰ができて、今も一緒に働いています。母は今までも一応保険には入っていたそうですが、自分の年齢と生命保険について改めて考え、加入することを決めたそうです。そして今回は、新しい商品がでたので、その紹介、説明、相談のために営業職員さんが来たそうです。ですが母がすぐ承諾しなかったのは保険料の問題があったからです。昨年度は人間ドックを受け、結果はやはり保険の営業職員さんもびっくりするほど良好だったそうです。今でも十分健康なのに、保険料が上がるということがひっかかったそうです。しかし今回紹介してもらった商品は、いざという時に今までより手厚く保障が受けられます。人間ドックの結果が良好だったため割引もきくし、若いうちに見直すほうが保険料も安くなるそうです。また、体が健康でも、事故や災害は防げないと考え、保険料が上がっても万が一に備えるために入り直すことを決断したそうです。

私が中学に入学した時も生命保険に加入しました。通学時に電車やバスを使うので、徒歩で通える学校に比べてリスクが大きいことから万が一の時のために、と営業職員さんがすすめてくれたそうです。生命保険と聞くと、なんだか物々しいし、正直、当時はよく意味を理解していません。サインをしました。だから最近母の相談で、よく来てくださっている営業職員さんに、

「生命保険って何ですか？」

第63回中学生作文コンクール

と聞いてみました。すると、私が入っているものも含めて、生命保険や社会保険制度の仕組みについて教えてくれました。色々な話を聞くなかで印象に残ったものがあります。それは『お守り代わり』です。生命保険は請求するものがなければ、お金は受け取れません。だから損に感じる人もいるかもしれません。ですが、いざという時にあるのとなしいのでは状況が変わってきます。金銭面的にも、メンタル的にも支えてくれるそうです。実際、父は昔、大きな病気をして入院したことがあります。その時、生命保険に助けてもらったそうです。でも、生命保険はもしもの時のためのもので、請求しないに越したことはありません。だから『お守り』ではなく『お守り代わり』なのだそうです。備えることの大事さを知りました。

私は生命保険という言葉は知っているけれど、どんなものか知りませんでした。が、生命保険に加入するメリット、社会保障制度などについて知りました。作文を書く中で面白いと感じ、興味を持ちました。どんどん知っていくうちに、印象が変わってきました。母のように健康な人でもリスクはあり、父のように助けられた人もいます。一人ひとりの責任や努力だけでは対応しきれないリスクに対して支え合い、必要な保障をしますが、それに加えて自助努力も必要だと思いました。生命保険について知らないことも、まだまだあるので学んでいきたいです。